

真の強さの源泉

校長 吉田 隆

岡本太郎展が新潟市で開催された。

昨年、国の有形文化財に登録された「太陽の塔」の制作者である。コロナ禍による自粛を強いられる中、岡本芸術が気持ちを解放させてくれるのではないかと期待し、会場に足を運んだ。

原色を多用した抽象画や彫刻が、独特の世界を創り出していた。一つ一つの作品から伝わる熱量は勿論だが、それ以上に、岡本氏の発する言葉のエネルギーに圧倒された。

帰りに著書を数冊購入した。その中の一節である。

○人間の生活は矛盾だらけだ。それに耐え、そのマイナス面をプラスの面に転化していくこと。それが創ることなんだね。（「壁を破る言葉」より）

○もし、敵がいるとすれば、画商や評論家や画壇なんてものじゃなくて、自分自身なんだ。（「壁を破る言葉」より）

○人間にとって成功とは何だろう。結局のところ、自分の夢に向かって自分がどれだけ挑んだか、努力したかではないだろうか。夢がたとえ成就しなかったとしても精一杯挑戦した。それで爽やかだ。（「自分の心に毒をもて」より）

感染拡大で医療を逼迫させないためにも、一定期間の自粛は不可避である。同時に、経済や教育の疲弊により奪われる生命もある。未だに、矛盾を乗り越えるための試行錯誤の日々が続いている。しかし、対面でかわることの重要性やオンライン活用の可能性など、苦しみの中から生まれた気付きや新たな取組があったことも事実である。

岡本氏の言う通り、矛盾に耐え、マイナスをプラスに転化していく努力の中にこそ創造があるのだろう。闘っている相手は、新型コロナウイルスではなく、自分自身だと言えるのかも知れない。

この一年、学校現場での闘いの日々を支えてくださったのは、紛れもなく、保護者と地域の皆様である。子どもたちには何とか楽しい時間を提供できないか、居場所を作ることとはできないかと、共に活動の意義や価値を探りながら歩んでくださった。

そして、子どもたちは、制約だらけの学校生活をたくましく生き抜いてくれた。この経験は、将来、夢の実現に立ちほだかる壁を打ち破るための、真の強さの源泉になるに違いない。

卒業・進級おめでとう。

子どもたちの未来に幸あれ！